

仏像彫刻木彫刻通信

第三号

平成三十年十二月
発行所 関僊雲仏所

信心会 仏像彫刻・木彫刻教室

中目黒 日曜教室 水田 みどり さん



今回は中目黒教室に通う水田さんにお話を伺いました。教室へ通われるきっかけを教えてください。

水田さん「元々日本文化やお寺などが好きで良くお寺や神社に行っていました。それで仏像彫りたいな、自分でも欲しいなと思って思っただけです。」

いくつか教室も探したんですが、こちらの教室が長く続けられそうだったので通うことにしました。

「これまでに行かれた中で、お勧めの寺などありますか。」

水田さん「千本釈迦堂は良かったですね。人が少なかつたので仏像と一対一で向かい合うようにゆっくりと拝観出来て、まるで仏様に見られているような感じがしました。後は泉涌寺の二十五菩薩は表情がとても柔らかくて感じるものがありました。」

「教室に通い始めてどれくらいになりますか。」

水田さん「教室は九十年になります。」

「実際に彫られてみた感想はいかがでしたか。」

水田さん「前から見てきた仏像のすごさがより分かるようになりました。」

「彫ってみたいものなどありますか。」
水田さん「五大明王とか、あと、雲中供養菩薩にも興味があります。」

「以前、大学の通信講座で仏像と関係のある勉強をされたと伺いましたが。」

水田さん「仏像だけではなく、考古学を含む文化財学全般について勉強をしていました。実は通訳案内士という資格を持っていて、いつかそういったスキルを活かしたこともしてみたいなと思ってます。」

「すこいですね。彫刻の経験も活かせるのではないのでしょうか。」

彫刻以外に興味などありますか。

水田さん「木簡に興味があります。昔の人の実際の生活が知れて面白いんです。」

例えば昔の皇族が鶴の飼育係に払った給料とか書かれていて、鶴飼ってたんだけみたいな驚きがあります。」

「とても面白いですね。昔の日本人を知るとい意味では仏像にも通じるものがありますね。」

「これからの抱負などありますか。」

水田さん「まずは今作っている大日如来を完成させたいと思います。まだ光背と台座も作らないといけないので、まだまだ時間はかかると思っています。」

「完成が楽しみです。」

「本日はどうもありがとうございます。」

「ありがとうございます。」

「ありがとうございます。」

「ありがとうございます。」



内弟子 菊池 僊藍



関僊雲仏所内弟子の菊池僊藍です。

関先生に入門のお許しを頂いてから六年が経ちました。

普段は富山県井波の工房にて勉強させて頂いております。

また昨年は半年ほど中目黒の工房にて仏画教室の講師を勤めさせて頂きました。

東京の生徒さんと日々交流をさせて頂きました。

九月に上野の森美術館にて開催されました第三回日本木彫刻展では彫刻作品と仏画作品を出展させて頂き、二日間会場にてお手伝いさせて頂きました。

その際、生徒さんを初め、多くの方々のご来場下さり温かい励ましのお言葉を頂きました。

多くの方とご縁を賜り、励まして頂き、誠に有難いことだと実感致します。

これからも師匠に頂いた名に恥じぬよう日々精進して参りますので宜しくお願ひ申し上げます。



第三回 日本木彫刻展



さる九月の二十日、二十四日、上野の森美術館にて第三回日本木彫刻展を開催致しました。

会場には連日多くの来場者が訪れ、五日間で約五千人もの方に足をお運びいただきました。

「神祕のヴェール」はインタナーネット上で話題となりテレビにも取り上げられました。

御来場者を初めご支援いただきました多くの皆様方に心より感謝申し上げます。

「ありがとうございます。」

「ありがとうございます。」

「ありがとうございます。」

「ありがとうございます。」

「ありがとうございます。」

「ありがとうございます。」



高崎教室 田中 初夫 さん



高崎教室の田中さんは教室が始った頃から通われていて、十一年目になります。教室に通い始めたきっかけは何でしたでしょうか。

田中さん―最後の余暇の楽しみです。元々石仏に興味があったんです。石よりも木のほうが早いと思って、そういう考えで始めました。

摩崖仏とか見てそういったのを彫ってみたいと思っただけでも、元の理屈なんか分からないから。好き勝手に彫るわけにもないし。こちらで足元から額口までを十等分に分けてマスを引くとか教わって、大変勉強になってます。

―今でも石で仏像を彫りたいと思いますか。
田中さん―いやあ、もう全然ないですよ。木だつてこんなに大変なのに、今は木で精一杯です。

―今彫られてる六寸のお地藏さんも、もうすぐ完成ですよ。

―次は何をされるか決めていきますか。

田中さん―次は観音様がいいかなと思つてます。大きさは九寸くらいが作りやすいのかなと思つてます。小さいと目が遠いから大変なので。

―他にこれまでに作られた仏像はありますか。

田中さん―一尺二寸のお地藏様を作りました。二体を同時進行で作ったんです。



―一体を教室で教わりながら作って、家ですべて目と同じように彫って、二体とも仕上げました。

―すごいですね。ご自分の力だけで、別にもう一体作られたんですね。

田中さん―二体目は少し失敗しましたけどね。今彫ってる六寸のも四体同時に彫つてますよ。

―すごいですね。彫られて完成された感想はいかがですか。

田中さん―達成感がありますね。

―周りの反応はいかがですか。

田中さん―見せるとやっぱり反応があるよね。おおきいと迫力があるから。

―次に作る観音様も二体彫られるんですね。

田中さん―そうしたいと思つてます。あと、板に彫るようなものもやってみたいですね。

―彫刻以外の趣味などはありますか。

田中さん―今は仕事が忙しいので、趣味の時間は全部彫刻ですね。

―そうなんですね。



井波教室 山本 百合子 さん

―山本さんは井波教室の会場でもある施設「あずまだち高瀬」の元職員で教室が始った時から生徒さんです。

―何時から教室を始められたんですか。
山本さん―関先生がここで教室を始めたのが平成一九年なんです。そのとき私はここで働いてまして、興味があったのでやりたいですとお願ひして入会しました。

―山本さんは井波のご出身でしたか。

山本さん―はい井波です。なので昔から木彫刻にはなじみがありました。昔は井波で彫刻と言ったら本当にすごかったです。仕事が終わるまでかあつてこなすのが大変だつて。欄間が十年待ちなんて話もありましたし、門前通りに彫刻の修行に来た若い人がいっぱい入つてきてました。

―今は時代が変わつて新しい家に欄間が入らないようになってしまいましたけど。

昔から彫刻家の先生がお弟子さんと彫刻をしているのを見て自分もやってみたいなという気持ちはありました。

―今彫っているのはウサギですか。

山本さん―干支の置物のウサギです。家族にそれぞれの干支の置物をあげようと

思つてます。全部で六種類彫らないといけないんですよ。

―素敵ですね。これまでにどういったものを彫られましたか。

山本さん―今まで調味料入れや表札、看板、木彫パネルの「おわら」と「バラ」を「桜に春告鳥」を作りました。パネルの作品は玄関に飾っておくと来た人にかわいい



―つて言われます。

―井波の方でも驚かれますか。

山本さん―

―そこまで見慣れてない

―と思う。彫

刻家のお店

―ウサギの次は何を彫られますか。

山本さん―来年の干支のイノシシを彫るつもりです。

―イノシシはどなたかの干支なんですか。

山本さん―私です。後パネルの作品も何か作つて揃えたいです。季節ごとに掛け替えて玄関に飾りたいですね。

―それはいいですね。

山本さん―後せっかくこちらの教室に来ているのでいつか集大成で仏像も彫つてみたいですね。

―彫刻以外の趣味などはありますか。

山本さん―私は彫刻を始めるまで全然趣味とか作つてこなかったんです。なので彫刻が一番の趣味ですね。後は健康のために体操をするぐらいですね。

―そうですか。でも唯一の趣味が彫刻ついでいいですよ。

―本日はどうもありがとうございました。



関僊雲 仏像彫刻・木彫刻学院

学院生 茂木 康次郎 さん



今回は学院生の茂木さんにお話を伺いました。茂木さんの作られた仁王像は第三回日本木彫刻展においても来場者の注目を集めていました。

—茂木さんが学院に入られたきっかけを教えてくださいませんか。

茂木さん—元々手で何かを作るような趣味がなかったんです。仕事でIT系なのでパソコンを使ったりするのは違っていた趣味が欲しいと思いついて、そんな時に思い出したのが、かつて大学の先輩が良く言っていた「将来仏像を彫りたい」という言葉だったんです。彼がどれほど本気でそう言っていたのかはわかりませんが、それがきっかけでネットで調べてこちらを見つけました。代表の関先生が自分と同じ群馬県出身だったことに親近感が湧いたのもこちらを選んだ理由の一つですね。どうせやるなら単なる楽しみではなく将来的に仕事につながるくらい本気で取り組みたいと思いついて、学院の方を受講させていただくことにしました。—これまでにどういった作品を制作されましたか。

茂木さん—六寸地藏菩薩と一尺二寸聖観音菩薩、仁王像を阿形・吽形一体ずつ作りました。

—実際に仏像を彫ってみて感想はいかがですか。

茂木さん—難しいですね。先生からは奥行きを見せることの大切さなど理屈でしっかりとご指導頂いてますので、立体的の見方が分かってきましたね。あと、人間の目がいい加減だということがよくわかりました。一回削ってうまくいったと思っても見る角度や光を変えると全然見え方が違ってきたりする。

仁王像を作るのにあたって粘土で原型を制作しましたが、粘土は同じ場所を何度も修正することができるのでこれは大変勉強になりました。

—次は何を作られる予定ですか。

茂木さん—まだはつきりとは決めていないのですが、弥勒菩薩は作ってみたいですね。先程も言ったように粘土がとても勉強になりましたので、次回も粘土からしっかりと作りたいですね。

—将来的な目標などありますか。

茂木さん—自分は仏師になりたいとか、作家として作品を発表したいとはあまり考えてないですね。そういった機会もあればいいなとは思いますが、それよりも自分の学んだ彫刻の技術を広めたいと思



—素晴らしいですね。何か初心者の方へのメッセージなどはございますか。

茂木さん—そうですね。ストレッチはした方がいいですね。結構肩に負担がかかるので。実際四十肩になりましたよ。気を付けた方がいいです。

—なるほど。確かに長く彫刻を続けるには健康面にも気を配った方がいいですね。本日はどうもありがとうございました。



特別展 国宝 東寺 空海と仏像曼荼羅

真言密教の根本道場、東寺に伝わる空海ゆかりの数々の名宝をはじめ、講堂安置の立体曼荼羅21体より史上最多の15体が出品されます。

会場 東京国立博物館
会期 2019年3月26日(火) - 6月2日(日)

休館日 月曜日・5月7日(ただし4月1日(月)は特別展会場のみ開館)

4月29日(月・祝)、5月6日(月・祝)は開館

時間 9:30~17:00

(入館は閉館の30分前まで) ただし会期中の金曜・土曜は21時まで

おすすめ展覧会情報

仏教豆知識

道具



道具

何かを作ったり、何かをする為の用具を道具って言いますよね。

でも、なんで道の具なんでしょう？

実はこの道は仏道の道なんです。つまり、元々は仏道の修行をしているお坊さんの持っている用具を指して道具と言ったんです。

自分はお坊さんではないですが、仏師の修行の一番最初は道具作りでした。まさに道の具だと思います。

絵・文 内弟子 青木 齊